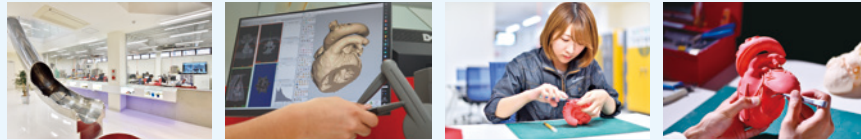


クロスメディカルのご紹介



当社では、母体のクロスエフェクトが長年培ってきた開発試作技術とリソースを最大限に活用して、医療分野に特化したものづくりを行なっています。精密な臓器モデルをはじめ、実験機器や医療機器の製作など、迅速なスピードで企画段階から社内で一貫して対応しています。これまで、当社独自の技術力が評価され、第5回ものづくり日本大賞 内閣総理大臣賞やグッドデザイン賞2013金賞ほか多くの賞をいただいています。



クロスメディカルの事業

当社は、当カタログでご紹介しているオーダーメイド臓器モデルのほか、次の事業を行なっています。

術前にご活用いただける医療機器 術前シミュレーター

患者様個々の生体データをもとに製作する術前シミュレーターは、解剖学的な構造を把握できる医療機器です。術前診断を補完するためにご活用いただけます。



製品名：術前支援モデル「CARDIO Simulator」
医療機器届出番号：26B2X1003200001

教育やトレーニング、患者様への説明用に スタンダード臓器モデル

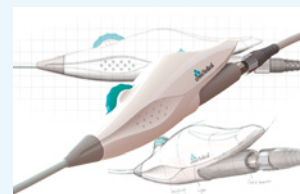
教育や手術手技のトレーニングなどにご活用いただける臓器モデルを製作、販売しています。生体データをもとに、精巧な内部構造を再現しています。



お客様の課題を様々な方法で解決 医療系ものづくり

医療や医学のクリエイティブなご要望に対して、次のソリューションをご用意しています。

- 医療機器のデザイン・設計
- 医療機器や実験機器の試作 / 小ロット生産
- プロモーションツールの製作
- CTスキャンサービス
- メディカルイラストの作成 / 3DCG・動画の制作



お問い合わせ

以下のいずれかの方法にて、お気軽なお問い合わせください。オンラインでのご説明も可能です。

- 【お電話】 075-612-3900
- 【メール】 info@xcardio.com
- 【お問い合わせフォーム】 <https://www.xcardio.com/contact>



【製造販売元】

crossMedical 株式会社クロスメディカル

第二種医療機器製造販売業許可番号：26B2X10032

医療機器製造業登録番号：26BZ200097

www.xcardio.com

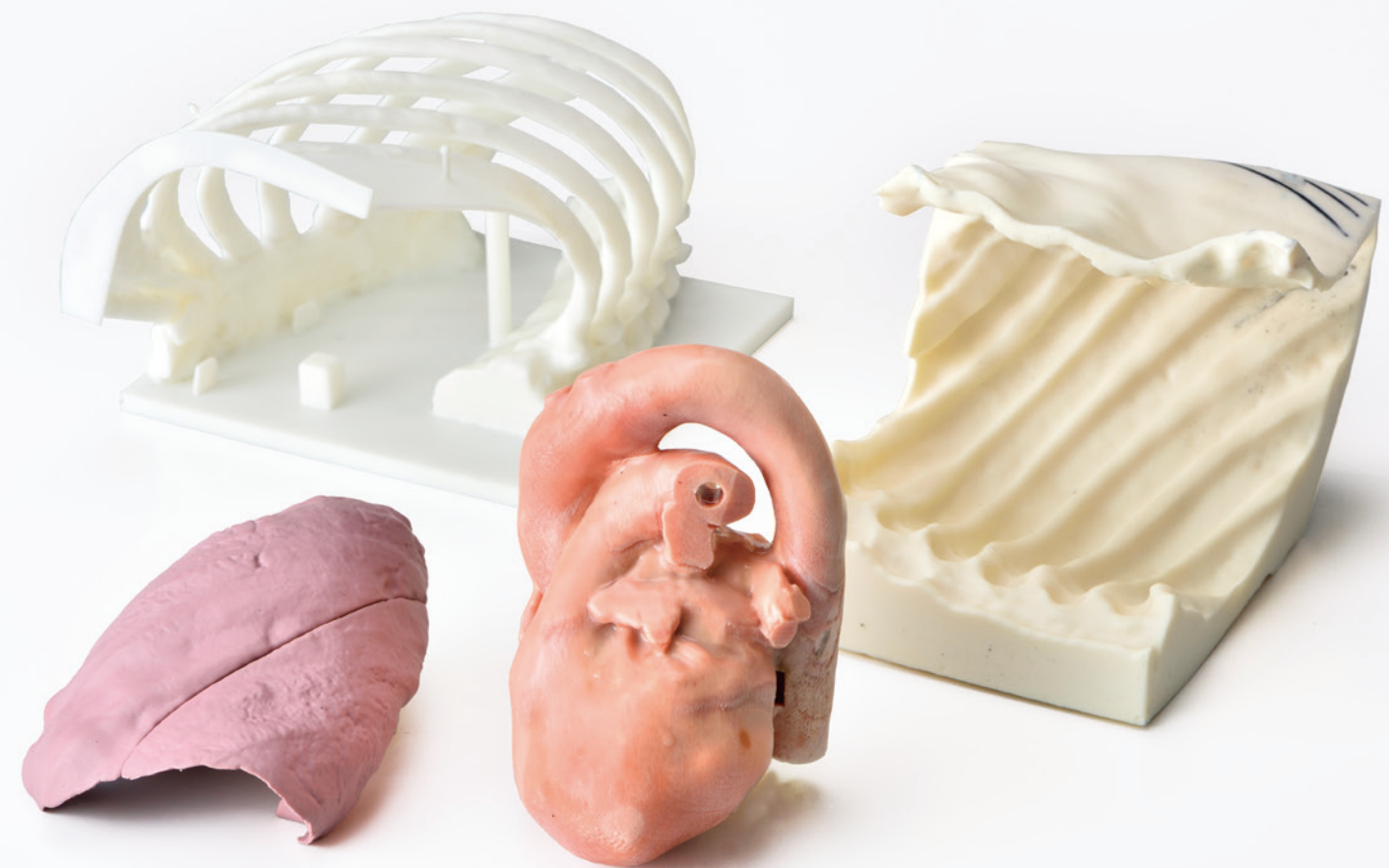
【本社】 〒612-8379 京都市伏見区南寝小屋町57番地
Phone：075-612-3900 Fax：075-612-6200

【Lab.】 〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6番1号
国立研究開発法人国立循環器病研究センター
オープンイノベーションセンター 30302号室

crossMedical

Custom-made Organ Model

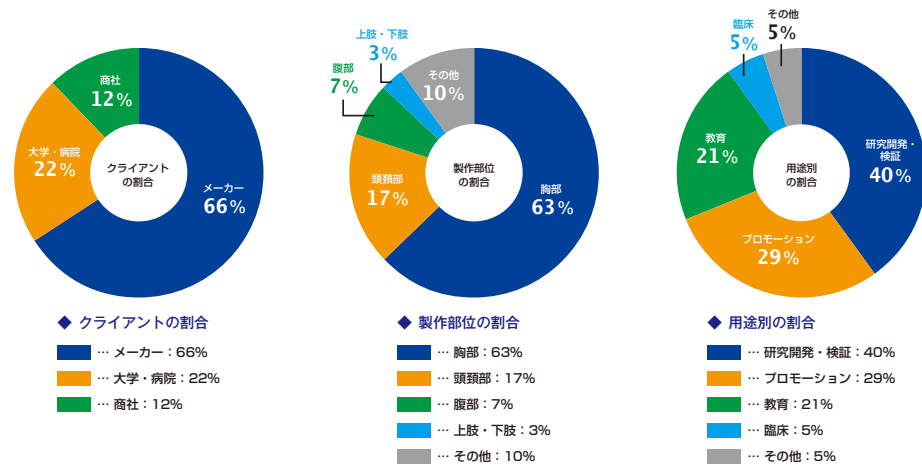
オーダーメイド臓器モデル



様々な臓器をご要望の仕様で 精密な3Dモデルに再現

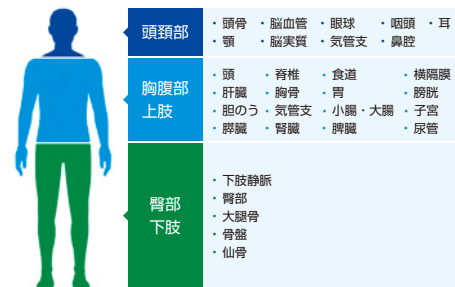
クロスメディカルでは、用途に応じて詳細なデータ処理を行なったうえで、あらゆる臓器の精密な3Dモデルを製作します。

実績



※各データは2019年1月～12月の実績をもとに作成

特長



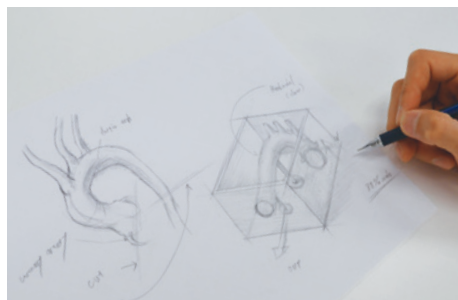
01 あらゆる臓器モデルも、必要な周辺機器も

当社では、様々な使用用途に応じたあらゆる臓器モデルの製作実績が豊富です。また、モデルを使用する際に付随して必要な周辺機器の製作も可能です。



02 豊富な医療分野の知識を活用して製作

クロスメディカルのスタッフは、医療機器である術前シミュレーターの製作に携わっています。だからこそ、専門知識を生かしたきめ細やかなご対応が可能です。



03 ゼロからのものづくりが可能

3D臓器モデルは、CTデータからはもちろん、データをカスタマイズして製作することも可能。もとならないデータがない場合も、手書きのイラストや医学書などをもとにデータの作成からご対応します。



04 材料や工法を使い分けて製作

お客様の目的に応じて材料や工法を使い分け、ご要望に応じた3D臓器モデルをスピーディーに製作します。

使用シチュエーション

Research & Development 研究開発

- ✓ 開発している医療機器や新しい術式を検証するため
- ✓ コストを抑えつつスピーディーに製品開発を進めるため
- ✓ 動物実験に替わる実験用の模擬臓器として
- ✓ 医療機器を開発する際の定量的な評価のため



Promotion 販売促進

- ✓ 展示会で、製品の特徴をわかりやすく伝えるため
- ✓ 医療従事者に対して製品説明を行なうため
- ✓ 造影検査などを用いず、医療機器の挙動を手軽に確認するため



Education 教育

- ✓ トレーニングツールが存在せず、オリジナルのツールが必要なため
- ✓ 医学書などではイメージしづらい臓器の三次元構造を把握するため
- ✓ 難易度の高い手技をトレーニングするため



Clinical Application 臨床

- ✓ 患者様への疾患や治療の説明時に使用するため
- ✓ 希少疾患を学ぶ機会を創出するため
- ✓ 新たな治療法を導入する前の予行演習を行なうため

